

eat

平成19年5月 盛岡市三本柳6-1-1 盛岡赤十字病院

発行責任者 院長 沼 里 進

盛岡赤十字病院医療連携だより No.11

基本理念

私たちは、人道・博愛の赤十字精神にもとづき、みなさまの生命と健康を 守るために、信頼される医療を実践します。

平成19年度新体制でスタート 沼里 進院長が就任



ごあいさつ

院長沼 里 淮

新緑の候、皆様には益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

日頃は、大変お世話になり誠にありがとうございます。

さて、このたび、4月1日付けをもちまして、前院長の利部輝雄先生の後任として、私こと沼里進が盛 岡赤十字病院院長を拝命いたしました。

もとより微力ではございますが、職員とともに力をあわせて、地域の皆様のお役に立つよう一層励む所 存ですので、これまで同様、皆様のご厚情とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

当院は4年前に急性期病院を選択したところですが、徐々に平均在院日数の短縮化が進み、患者数減少の 傾向が強まる中、18年度診療報酬のマイナス改定により、さらに医療情勢は厳しさを増すこととなりました。

こうした状況を踏まえ、当院は平成18年4月よりDPC対象病院となり、業務量が増える結果とはなり ましたが、職員一丸となり、取り組んでいる最中であります。

一方、昨年は嬉しいこともありました。その一つは、前期研修を終えた研修医3名のうち、2名の方が当 院に残り、すでに消化器内科医と泌尿器科医として、活躍して下さっていることです。そして、今年も5名 のうち、1名が内科医として活動し、さらに、4名の新研修医を新たなメンバーとして迎えております。

また、二つ目は、病院機能評価 Ver.4を取得したことであります。このことにより、前院長の夢でも あった、厚生労働省認可の緩和ケア病棟設置に向けた動きが活発となり、来年4月を目標に計画を進めて いるところです。

本年度より、当院では副院長3人体制となり、村井啓子副院長(内科)が教育・医療連携等を、松田壯正 新副院長 (産婦人科) が診療・医療安全等、そして、旭博史新副院長 (外科) が経営・緩和ケア等をそれぞ れ担当することになりました。

また、新看護部長には北村和子が、新設の血管内治療科部長には廣瀬敦男が就任いたしましたので、よ ろしくお願い申し上げます。

地域医療連携の重要性は論を待ちませんが、「地域の皆様の健康を、連携してお守りする」ことが、使命 と認識しておりますので、新年度におきましても、何卒ご支援とご協力のほど、お願い申し上げ、ご挨拶 とさせていただきます。

副院長3人体制に



村井 啓子 副院長

総合内科

引き続きよろしくお願いいたします。

松田 壯正 副院長

産婦人科

石割桜が満開になりました。いよいよ北国の春も盛りになりますが、貴台におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

このたび副院長を拝命いたしました松田壯正でございます。日ごろ医療連携にご協力いただき本当にありがとうございます。私、平成14年11月から産婦人科部長として勤務いたしておりますが、産婦人科の先生はもちろん専門の異なる先生方から大変多くの患者さまをご紹介いただき感謝申し上げます。先生方が親身になって患者さまの診療にあたっておられることがよく理解できますとともに、他科の疾患をよく研究されておられることにいつも敬服いたしております。4月1日から沼里新院長のもと病院職員一丸となりまして、患者本位の医療に力を尽くす決意を新たにしております。患者さまのご紹介をいただいた際には迅速な診療をおこないできるだけ早くご報告を申し上げるなど、連携を強化するよう努力いたし、失礼なことのないよう院内指導を徹底いたします。本来拝眉の上ご挨拶申しあげるところですが、略儀ながらご挨拶に代えさせていただきます。今後ともご指導ご鞭撻をお願いいたします。

末筆ではございますが先生方のますますのご繁栄を祈念いたします。

旭 博史 副院長

外 科

本年4月から副院長3人体制にともない副院長の重責を拝命いたしました。昭和49年岩手医科大学を卒業し、同大学の第1外科に勤めていましたが、平成17年9月から日赤に勤務しております。前院長の利部先生のもとで1年半ご指導を受けて参りまし

たが、副院長の大任にはいまだに戸惑いを隠しきれません。昨年度は医療技術部長として栄養課の協力のもと栄養サポートチーム(NST)を立ち上げ1年間何とか継続させ、この3月にはNST稼働施設の認定を受けることができました。当院は盛岡南から紫波地域の中核病院と位置付けられており、急性期病院としての機能を全うするには地域の医療機関の皆様との「連携」が重要です。院内で行われている「チーム医療」を地域医療機関に拡げていくことで、医療の充実を計りたいと考えております。また、地域の社会的ニーズと日赤病院としての使命から緩和ケア病棟の新設を決定しました。厚生省施設基準に基づく病棟で、来年度早々の開設を目標に準備をしております。今後とも地域医療連携を通してお互いの役割分担を強化し、地域全体での医療の質を向上させる所存です。関係の皆様のご指導ご鞭撻のほどをお願いいたします。

血管内治療科開設

血管內治療科部長 廣 瀬 敦 男



平成19年4月から血管内治療科を開設致しました。新しい科ですが業務内容としては 従来私が放射線科で行ってきたことと同様です。また血管内治療科の外来も放射線科の外来を使用させてい ただいています。

さて肝心の業務内容ですが以下にご紹介するような事を主として行っています。まず埋め込み型中心静脈カテーテル設置術です。これは悪性腫瘍の静注化学療法を行うに当たって血管確保が困難な患者さんにあらかじめ中心静脈カテーテルおよびポートと呼ばれる穿刺用に使われる器具を体内に埋め込み、血管確保を容易にするために施行するものです。なお同カテーテルは在宅中心静脈栄養の際にも使用されています。この手技は外来でも施行が可能です。次は肝細胞癌に対する動脈塞栓術です。これは以前から行われている手技ですがやはり手術不能の肝細胞癌患者の予後を向上させるのに有用な治療法です。治療適応の判定および入院が必要ですので消化器内科の協力を得て行っています。上記の治療手技は併せて年間200件弱行っています。その他外傷や腫瘍による出血に対する動脈塞栓術や薬剤の動脈内投与目的のカテーテル留置などを各科のご協力のもとに行っています。また画像診断も業務の大半を占める重要な仕事でCTの読影を中心に行っています。

画像誘導下の血管内治療および画像診断を行う科です。従来の放射線科同様によろしくお願いします。な おご紹介は放射線科あてで問題ありません。

+ 連携室からのお知らせ +

再度お知らせ「精神科新患受け入れ休止中」

当院の精神科は常勤医師がいないため、岩手医科大学精神神経科学講座から週2日医師の派遣を受けて診療しております。ところが、診察は予約枠に入り切らないパンク状態になっており、他科入院中の患者の診察や院内他科からの紹介に十分に対応できなくなっています。

そのため、昨年5月から新患の診察を休止し、 再来患者のみの診察としておりますのでご理解を お願い申しあげます。紹介患者もお受けできかね ますので、精神科を開設している他の医療機関へ お願いします。

次号は、新任医師の自己紹介特集です。

「ペインクリニック」外来が引っ越しました

総合内科の隣に外来診察室ができました。診察 日はいままでどおり火曜日と木曜日です。

少しづつですが、患者様のために 体制の充実を図っています

◎相談室の社会福祉士が2名になりました

一人前になるには時間がかかりますが、事例 をこなしていくたびに、みなさまの相談・支援 に応えられるようになっていくことと思います。

◎臨床工学技士も1名増員計3名に

いま一番求められている医療安全体制の充実 のために。直接生命に関わる機器のリスクの軽 減に当たります。